

恵庭市民オープンカレッジ

「ふるさとの川と鮭について学ぶ」の開催

等々力 順祐

平成 22 年 9 月から 10 月にかけて、恵庭市教育委員会との共催により標記の市民講座を開催しましたので概要を報告します。

市民オープンカレッジは、恵庭市教育委員会が「様々な世代の方に生涯を通じ人生をよりよく心豊かに充実していけるよう学習の場を提供する」との趣旨で平成 11 年から毎年開催している市民向けの教養講座です。

恵庭市は、茂漁川の河川改修などに見られるように、行政と市民が協力して河川環境の維持保全に取り組むとともに、河川を通じた様々な環境教育活動を推進するなど行政、市民の川・水に対する意識の非常に高い地域です。当场でも、これまで「えにわ市民サケの会」などのサケ稚魚放流活動などへの協力や小中学生に対する学習機会の提供など、様々な面から地域の取組を応援してきています。

当場では、ここ数年、地元の漁川をフィールドとしてサケの遡上調査を行っており、その調査結果から、漁川に遡上するサケは人工増殖によらない、自然産卵によるサケであることが分かってきました。

そこで、このような研究成果を多くの市民に知ってもらい、漁川という貴重な環境資源に対する認識を新たにしてもらいながら、河川環境保全への一層の取組や、新たな観光資源としての活用方を考えるきっかけにして欲しいとの願いから、市民講座を開こうと考え恵庭市に相談したところ、偶々オープンカレッジの企画を検討中だった市教育委員会のニーズとマッチし、共催でこの講座を開設することが決まったものです。

一般市民を対象とした独自の催しは当场でも余り例のない試みでしたが、参加する皆さんに無理なく学んで、そして楽しんでもらえるよう、全部で 3 回のシリーズとし、2 回の座学の間に 1 回のフィールドワークを設定し、座学ではサケマスに

関する知識や研究成果の紹介、サケとヒトとの関わり方の歴史、さらに食材としての利活用などについて、またフィールドワークでは水試が行っている調査を実際に体験してもらうなど、外部講師も招聘しての盛り沢山の企画を考え、準備を進めていきました。

第 1 回講座は 9 月 21 日(火)に開催しました。参加者は 27 名。開講式の後、「サケを学びサケに学ぶ」と題してさけます資源部の小林研究主幹によるサケマス全般の基礎知識についての講義と、「漁川でのサケ調査」と題して同部佐々木研究主幹による当场の研究成果の紹介を行いました。多少難しい内容もありましたが、参加者は皆さん非常に熱心に聞き入っていました(写真 1)。



写真 1 第 1 回講座の様子

第 2 回講座はフィールドワークです。10 月 2 日(土)に 31 名の参加の下で行われました。週半ばに降った大雨の影響で上流ダム湖からの濁りがなかなかとれず前日まで実施が危ぶまれていましたが、当日は何とか観察可能なまでに回復し、天候にも恵まれ、市内の恵庭大橋近辺で遡上観察を実施することができました。

参加者の中には高齢の方も多く、安全確保ときめ細かな説明・対応ができるよう、5 つの小班編

成にしてさけます資源部の研究員をそれぞれに配置しましたが、指導に当たった研究員達は皆きびきびと、また丁寧に説明を行ってくれてスムーズに観察を行うことができました(写真2)。

欄干の間から川を一心にのぞき込んでいた83歳のおばあちゃんからは、恵庭に移り住んで何十年もたつが初めて遡上するサケを見て感激したと言っていました。



写真2 第2回講座(フィールドワーク)の様子

その後バスで移動し、下流の4号床止めに施工された魚道改良工事箇所の視察、市内西井養魚場の見学、さらに内水面水産試験場で昼食の後、施設の見学を行いました(写真3)。



写真3 第2回講座(施設見学)の様子

昼食時には、養魚場から提供してもらったニジマスの刺身を試食してもらい、また小林研究主幹

が自慢の腕をふるって作った石狩鍋も振る舞われ、どちらも参加者から大変好評を博しました。

第3回目、最終回の講座は10月13日(水)に開催し24名が参加しました。市郷土資料館の大林学芸員による「サケマスの歴史と文化」についての講義、その後網走水試飯田利用加工部長による「サケマスの利用・加工の現状について」の講義を行い、水試が試作した「鮭フレーク」と藤井水産のコンドロイチン錠剤をサンプル提供しました。講義終了後に閉講式を行い、一同記念写真に収まって、こうして無事に3回の講座をすべて終了することができました。

後日、講義に使った資料を編集し表紙にフィールド調査時の写真を載せたA4版22ページの冊子を作成して、記念写真を添えて参加者全員に郵送したところ、次のような丁寧な礼状をいただきました。

「カラーのガイドブックと写真を送って下さりありがとうございます。老人にとって今回のオープンカレッジは老後の良き思い出になりました。漁川に上がるサケは自然回帰の貴重資源のサケであり、更に増殖し日本での有名な河川になりますよう皆様の努力を願っております。楽しい3日間をありがとう。」

出席者は3回で延べ82名、37歳から83歳まで平均年齢68歳と高齢の方の多い講座でしたが、事後のアンケート調査では殆どの方に良い評価をしていただき、ほんとに安堵しているところです。

今年は、道立水産孵化場が北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場として新たにスタートした記念すべき年、そして水産孵化場が恵庭市に移転して25年目の節目の年でもあります。今後とも地域に親しまれ、地域に頼られ、そして地域に支えられる試験場であり続けるためにも、また機会を見てこのような企画を行いたいと考えています。

(とどりき よりすけ：副場長)